

『日口外誌』用字用語例

[×印=使わない ○印=使う]

現在「日口外誌」では下記のように用字用語を用いておりますので、これに基づき使用するようご協力をお願い申し上げます。

×	〈あ〉	○	×	〈て・と〉	○	×	○
凡ゆる	あらゆる		出来る	できる		洗滌	洗浄
或、或いは	ある、あるいは		時々	ときどき		萌出	萌出
表（現）わす	言葉に表す 姿を現す		何処	どこ		上口唇	上唇
	くい・う		～する所の	～するところの		下口唇	下唇
言う、いう	彼の言うこと そういうこと		所々	ところどころ		口腔底	口底
如何に	いかに		～共	両方とも		レントゲン	X線、エックス線
一旦	いったん		伴なう	伴う		廓清	郭清
～し得る	～しうる（助動）			くな		ビ漫	瀰漫、びまん
～しえる	許可を得る		無い	ない		ウ蝕	齲蝕、う蝕
	くお		尚、尚更	なお、なおさら		頤	オトガイ
凡そ	およそ		～の中、中には	～のなか、なかには		歯齦	歯肉
及び（接続詞）	および		中々、仲々	なかなか		頸	頸
およぶ（動詞）	及ぶ		ならぶ（動詞）	並ぶ			
行なう	行う		～なる（成る）	AとBから成る 小さくなる			
	くか			くは・ほ			
且つ	かつ		甚だ	はなはだ			
必らず	必ず		殆ど	ほとんど			
	くこ			くま			
事（こと）	事を起こす ～することが		先ず	まず			
～毎に	～ごとに		又（接続詞）	また			
此の	この		まったく	全く			
異なる	異なる		稀に、希に	まれに			
	くさ・し			くみ			
様々	さまざま		見る、観る、看る 診る、視る	みる			
併し	しかし		見い出す	見出す			
然も、然るに	しかも、しかるに			くも			
従って（接続詞）	したがって		勿論	もちろん			
したがう（動詞）	従う		以って	もって			
	くす		持つ	もつ			
少い	少ない			くや・ゆ・よ			
即ち	すなわち		～し易い	～しやすい			
全て、総て、凡て	すべて		故に	ゆえに			
	くせ・そ		～の様に	～のよう			
是非	ぜひ			くわ			
其の	その		亘って	わたって			
夫、其、夫々	それ、それぞれ			くその他			
	くた・ち		1ヶ	1個			
為	ため		～ヶ月、～カ月	～か月			
因みに	ちなみに		才	歳			
			年令	年齢			
						※『蝕』・『囊』・『頬』の漢字につきましては、印刷時に『蝕』・『囊』・『頬』の字体に置換えさせて頂いておりますのでご了承ください。	

日口外誌の統一用語

用語は、原則として「日本歯科医学会編 学術用語集第2版（医歯薬出版、2018年12月発行）に準じる。

提起された用語	検討結果	提起された用語	検討結果		
◆専門学会が学術用語を定めている場合には、それに準じて使用する。			◆疾患名等の日本語表記について		
口腔外科に関する専門用語について	「口腔顎頬面外科学専門用語集 2011(初版)、日本口腔外科学会編 2011、医歯薬出版」	Warthin腫瘍と腺リンパ腫	Warthin腫瘍を用いることを推奨		
補綴学用語について	「歯科補綴学専門用語集(第4版)、日本補綴歯科学会編、2015、医歯薬出版」	進行癌と進展癌	いずれを用いてもよい。		
解剖学用語について	「解剖学用語、(改訂13版)、日本解剖学会編、2007、医学書院」追加正誤表が日本解剖学会HPに公開	多形腺腫	多形性腺腫は用いない。		
インプラント用語について	「口腔インプラント学学術用語集(第3版)、日本口腔インプラント学会編、2014、医歯薬出版」	唇顎口蓋裂等	「口唇裂・口蓋裂」は病態の総称。「唇顎口蓋裂」「口唇口蓋裂」は破裂形態を示す。		
早期癌などの定義について	「日本癌治療学会・癌規約総論、日本癌治療学会編、1991、金原出版」	蜂窩織炎と蜂巣炎	いずれを用いてもよい。		
顎変形症の関連用語について	「顎変形症学会統一用語および用法(改訂版)日本顎変形症学会雑誌 2016」	骨折の診断名を表記する場合	骨の名称をいれる。 例：○下顎骨骨折、×下顎骨折		
◆発音、日本語表記について			◆その他の用語について		
bisphosphonate	ビスホスホネート	実験動物名はカタカナ表記とする。	家兎は「ウサギ」、猫は「ネコ」とする。		
hydroxyapatite	ハイドロキシアパタイト	ウサギの数え方	「何匹」と表記する。		
adjuvant chemotherapy	補助化学療法	抗生剤と抗生物質 抗菌剤と抗菌薬	抗菌薬に統一する。		
fibronectin	フィブロネクチン	歯牙と歯	できるだけ「歯」を用いる。		
model surgery	モデルサーチェリー	異和感と違和感	違和感に統一する。		
orofaciodigital syndrome	口腔・顔面・指趾症候群	舌縁と舌側縁	舌縁に統一する。		
orthognathic surgery	顎矯正手術	切除物	切除標本を用いる。		
osteodystrophy	骨異常症	摘出物	摘出標本を用いる。		
osteodysplasia	骨異形成症	◆自由表記とするもの(論文中ではいずれかに統一すること)			
fibrous dysplasia	線維性異形成症(線維性骨異形成症は使わない)	1例と1例	自由表記とする		
osseous dysplasia	骨性異形成症	1症例と1例			
dentigerous cyst	含菌性嚢胞	～歳代と～歳台			
follicular dental cyst	濾胞性嚢胞→含菌性嚢胞を用いることが望ましい。	部位の表記について			
lateral cervical cyst	側頸嚢胞	例) 上顎左側第一小白歯か左側上顎第一小白歯か、上顎左側白歯部か左側上顎白歯部などはどちらでもよい。			
branchial cyst	鰓嚢胞 病理組織学的にはリンパ上皮性嚢胞。				
postoperative maxillary cyst	術後性上顎嚢胞				
surgical ciliated cyst	術後性線毛性嚢胞 (顎骨内に粘膜上皮が埋入されている場合)				
◆日本語表記が未定のものは英語表記のまととする。					
density(CTの場合のdensity)	} 英語表記のまととする。				
DNA aneuploidy					